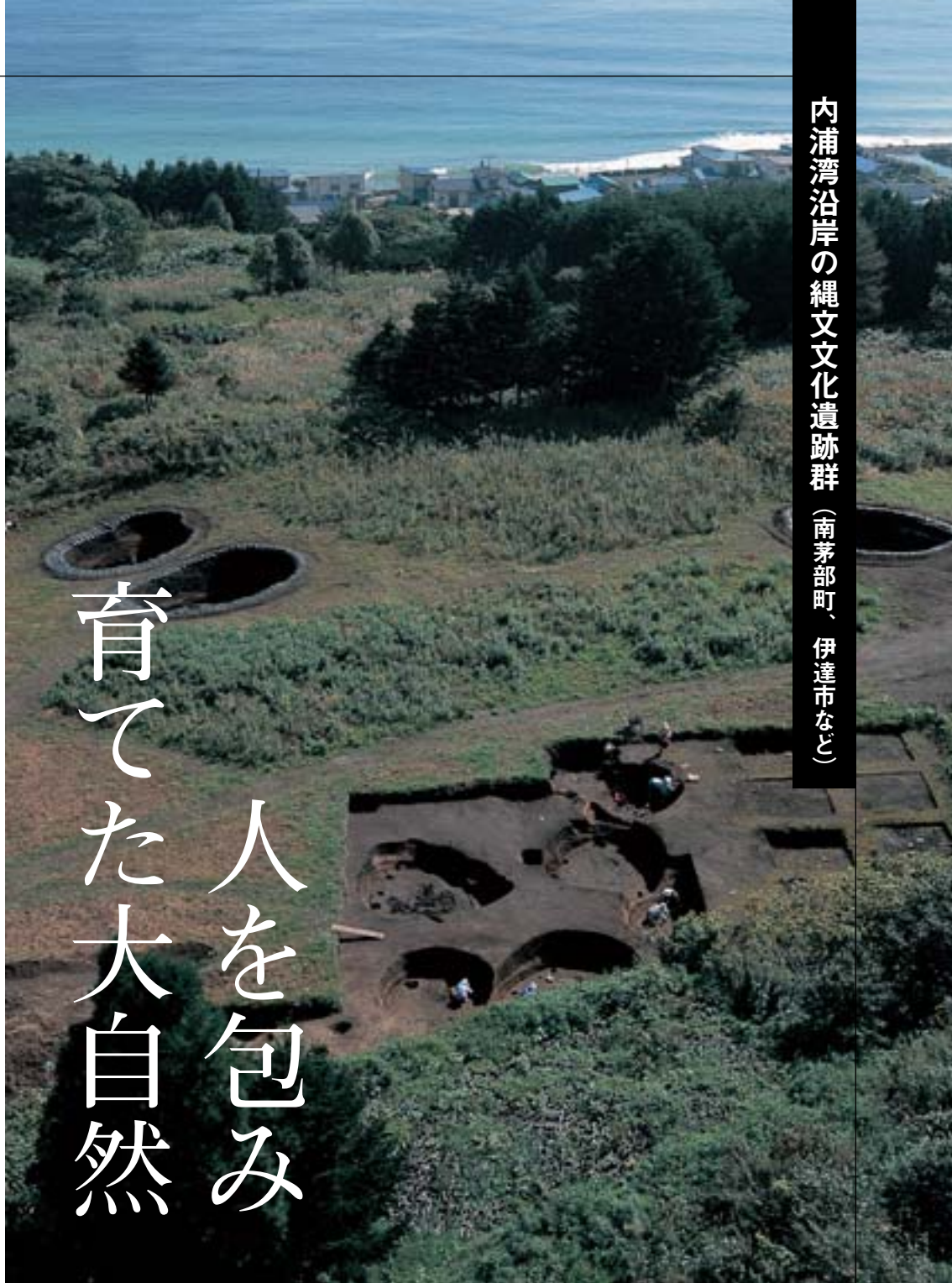




人を包み 育てた大自然

大船遺跡（南茅部町）

国の重要文化財
中空土偶（南茅部町）

室蘭市から渡島管内榎法華村まで、内浦湾（噴火湾）を囲む2市8町1村で、縄文時代から近世までの暮らしを語る貝塚や土器、骨角器などの出土する遺跡がたくさん見つかっている。南茅部町の大船遺跡、伊達市の北黄金貝塚、虻田町の入江

貝塚などだ。温暖な気候と豊かな海産物という大自然の恵みが人々を優しく包み、育ててきた。

× × ×

噴火湾沿岸は、道内で最も多くの貝塚が発見されている地域。特に、伊達市を中心とする東部沿

私と遺産

だれもが学べる古代ロマン

伊達市中心部から国道37号を室蘭方向に車で約15分。牧場や農場が広がる農業地帯の真ん中に、「史跡北黄金貝塚公園」がある。「私が遺跡を研究するようになった原点です」。伊達市教委文化財課長で、札幌医大非常勤講師も務める大島直行さん（52）が思い入れを語る。

北黄金貝塚は1948（昭和23）年、伊達高校教諭で、大島さんが「師匠」と呼ぶ峰山巖さんが発見した。

大島さんは釧路管内標茶町で生まれ、東洋大で考古学を勉強。北海道に戻って最初に北黄金貝塚を研究対象に選び、峰山さんを知った。当時勤めていた千歳市教委を辞めて札幌医大の助手となり、解剖学を研究。北黄金貝塚から出土した縄文人のほぼ完全な骨格を見て「この人はどういう人なんだろう」という思いが募り、遺跡研究を極めてみたくなったという。

峰山さんは大島さんに「遺跡は学者のためでなく、地域のためのものなんだ」と言い聞かせた。峰山さんの願いは、北黄金貝塚を誰もが学べる学習の場にする。峰山さんが92年に死去したあと、大島さんは師の構想を実現するために95年、札幌医大を辞めて伊達市教委に職を求めた。

大島さんの奔走が実って昨年6月、「史跡北黄金貝塚公園」がオープンした。縄文人の火おこしや疑似発掘体験など、体験学習メニューの